



Member's Open Space



犬が上か，人間が上か？

●美歯科医師会会員
雨田 実

アメリカのサーバーという、軽妙なユーモアと諷刺の健筆をふるったエッセイストの晩年の書の「サーバーの犬ども」という、すべて犬に関するエッセイばかりあつめたもののなかにこんなのがある。犬の家族生活を書いたものだが、彼らの家族生活というのはせいぜい6週間が限度であるという。もちろん父親犬などはもっと早い。子供を生ませるもっと前から、さっさと消えてしまう。妻子のために働くなどということは、もちろんない。もっとも細君のほうでも亭主犬の居所などでんで初めから念頭にない。そのかわり、ヤキモチのあまり亭主に私立探偵をつけるなどという、そんな狂態もない。

そんなわけで、家庭生活といっても母子だけの関係になるが、それも「たったの6週間で終わりだ」という。この間こそ食事の面倒も見てやれば、身体も舐めてきれいにもしてやる。恐ろしい敵からも日夜眠りを忘れ衛ってやる。ただ人間の母親とはちがひ、感傷性もなければ大騒ぎもしない。実にさりげなく静かにやっけてのけるだけだという。だがそれもわずか6週間たてば、いっさいがおしまいである。もはや仔犬どものために、夜もまんじりとせず敵から衛ってやることもなければ、食物の面倒も見ない。見ないどころか食物を争って仔犬どもに唸り声を立て、ついには犬小屋から追い出してしまふ始末。「おしまいだよ。こちらだって忙しいんだ。6週間もたって、まだお前たちの

面倒まで誰が構っているもんかい」とでもいわんばかりの顔つきだとサーバーはいうのだ。

もっとも仔犬たちも仔犬たちである。ある日突然、母親の見分けすらつかなくなってしまう。もちろん母犬も同様で、会っても赤の他人なら、ときには実子の尻つべたに本気で喰いつくことすら珍しくない。つまり再会の喜び、感傷的な涙、そんな馬鹿げた感情は一切ないそうである。小生も愛犬家ではあったが、雌犬は飼育したことがないので残念であるが、サーバー当人は有名な愛犬家の上に、新種までつくり出したというほどの専門飼育家というから、しばらく彼の観察を信用することにする。ところでこの一文を読んだのの小生の感想だが、家庭生活に関する限りどうも犬のほうが人間より一段も二段も上らしいと申し上げたら、或いはお叱りを受けるだろうか。ついでながら、サーバー氏の見解も小生と同意見なのである。近ごろの人間社会の過保護教育、いわゆる教育ママなどを見ていると、やはりどうも犬のほうが上のようなのである。6週間で立派に一人前の独立犬にする。させる母親犬もえらいが、なる仔犬にも頭がさがるではないか。